

1. 5流のつくりかた。

こんにちは、木坂です。

今回のセミナーは対象があまり一般的ではないと思いますので、メルマガなどでは一般募集はせず、Stay Goldセミナーを受けていただいた方と Wake Up セミナーを受けていただいた方のみ対象に募集したいと思っています。これらのセミナーを受けた人たちが次のステップに進む、次のステージに上がるにはこれが必要だろう、というものを考えたつもりです。

メールでは説明しましたが、来年の新年のセミナーはお休みする予定です。やるとしてもより一般的でないセミナーを少人数でやろうかなと考えています。それは、一般に向けてセミナーという形式で何かを伝えていくというスタイルが、来年も必要かどうかを考えてみたときに、必ずしもそうである必要はない、もっといい方法があるのではないかと思いついたからなのですが、一方で既に僕のセミナーを受講してくれた皆さんをどう理想世界に導いていくか、という問題について考えた時も、同様に「セミナーである必然性はないだろう」という結論に至りました。

これらの問題について、僕は今のところ少し“公平ではない”回答を用意しています。つまり、一般に向けた A という何かを用意する、そしてみなさんに向けた B という何かを用意する、というスタイルではなく、

「一般に向けた A という何かを用意し、皆さんに向けた A と B という何かを用意する」

というスタイルにしようと思っているわけです。

ここで明かしてしまいましたが、一般向けのセミナーというものは来年はやらないつもりですが、代わりにあるものを提供しようと思っています。そしてそのあるものとは、この2年半の経験も踏まえて導き出されたものなので、皆さんにも120%役に立つものだと思っています。これはこれで楽しみに待っていてほしいのですが、一方、今ここで募集しようとしているものは、皆さんだけに向けたセミナーになります。

だからメルマガなどで一般募集もしませんし、アフィリエイトを広く公開することもし

ません。あくまでも Stay Gold セミナーと Wake Up セミナーを受けた人が次のステージ
行くためだけにデザインされたセミナーだからです。

このセミナーは、タイトルにもある通り「1. 5 流のつくりかた」というものをメイン
テーマにしています。

一連の僕のセミナーでは、

「ステージを上げる」

「巨大な要塞を作る」

「1. 5 流を組み合わせる」

「自分だけの土俵を作る」

「誰とも競合しないユニークな存在に」

「USP ではなく MSP を」

などなど、いろんな言葉を使いながら同じ意味のことを解説してきました。そのことの
重要性は多くの方が理解してくれたと思っていますし、各人それぞれに努力してくれて
いると思います。ただ、僕が面談などをしていて感じるのは、彼らは悩んでいる、とい
うことです。

一体何に悩んでいるのか？

もちろん MSP が作れないとか、そういうテクニカルな部分の悩みももちろんあるのです
が、多くの方はそのもっと根本にある部分で悩んでいます。それは

「どうやったら巨大な要塞が作れるのか」

という部分です。

「巨大な要塞を作れば誰とも競合しないのは分かった。誰とも競合しなければ自分だけ
の土俵、独壇場ができてビジネスも何もかもが安定して自由にできることもわかった。
その要塞は1. 5 流をひたすら組み合わせることでできることもよく分かった。
でも、その1. 5 流を組み合わせるっていうのは、具体的にどうやるんだ？」

というわけです。

これが今回のセミナーのメインテーマであり、皆さんにお伝えしたいこと、もう一歩進んで、皆さんに「達成してほしいこと（＝巨大な要塞を作ること）」になります。

特殊な脳と普通な脳。

僕はメールで「火星人」などと少しふざけて自分を表現しましたが、新田君に「脳の使い方が特殊だ」と言われたのは事実で、その時彼と話しながら、僕が昔から多くの人たちに感じていた「不思議」が結構解明されていくような気分を味わいました。

何をもってして「特殊だ」と彼が言っているのか、細かい議論をはしょって結論だけを乱暴に言うと、

「短期的には、僕はものを忘れることが“できない”」

生き物だということなのです。「短期的に」なので必ずしも長期的な記憶力が抜群かと言われるとまったくそんなことはないと思うのですが、確かに、今見ているものや聞いているものを忘れることは相当難しい。

子供のころ、テレビの音楽番組で流れてくる曲を一度聞いただけで数日後でもベスト10全て丸々歌えたので親からも驚かれていましたが、僕はそれが「普通」だと思っていました。「聞こえてきたものを再現すればいいだけじゃない」と。そういう調子で、読んだ本、見た景色、聞いた音、会った人・・・あらゆる情報が、ほとんど消えることなく記憶されます。

ただ、それだけではありません。新田君が決定的に特殊だと言っていたのは、その記憶されている情報に濃淡がない、という点です。自分の中で、情報の重要度の差がないのです。全てを一度「同じように」覚えてしまう。

「普通の人には、記憶には必ず感情が伴っている。感情には喜怒哀楽があり、程度の差があるものだ。だから記憶にも濃淡が自然と生まれるし、その人の中で重要度が無意識的に決まってしまう。それは先入観かもしれないしバイアスに支配された結果かもしれないが、それが人間の記憶である」

というようなことを、新田君は言っていました。

僕にはこの感覚がありません。全ての情報から感情という情報は切り離され、同じ濃度で記憶されています。極端な話をすれば、身内が死んだのも遠くアフリカで一度も会ったことがない子供が死んだのも同じ濃さの記憶であり情報なのです。もちろん、その後で諸々の感情とリンクさせますから、結果としては同じ意味を持たないのですが、記憶の段階では少なくとも同じということです。

イメージがつきにくいかもしれません。比喩的に言ってしまえば、僕がやっているのは

記憶ではなく記録

なのだ、ということだと思います。

彼に、僕の記憶のイメージを伝えた時に使った喩えが、以下のようなものでした。

「何もない宇宙空間に、風船がふわふわランダムに浮いている。その風船ひとつひとつが概念としての記憶で、そこには順序も、序列も、時系列すらもない。ただ無数の概念たちが、ふわふわ漂っているだけで、何かのトリガーがあつて初めてそれらが整理されたり、あるいは特定の風船だけが取り出されたりする。」

彼はそれを聞いてこう言っていました。「人間、風船のように、輪郭のくっきりした記憶が、それもランダムに記憶されているということはない。それはコンピューターのやり方です」と。

山を登る方法。

僕がコンピューターみたいな“記録”方式を取っているのかどうなのか、それは客観的に確認できないのでわかりません。でも、もしそうなのだとしたら、もし一般的な人間の記憶の仕方、理解の仕方と違うとしたら、これまで僕はもしかしたらかなり難易度の高いことを、人によっては求めてしまっていたのかもしれない、と思ったのです。

「人にはそれぞれ相性のいいやり方がある。だから何か特定のやり方を押し付けるべき

ではない」

というのは僕がずっと言っていることですし自分でも心がけていることですが、「脳の使い方」という自分では全く意識することができない部分での相違点を認識できずにいたというのは、個人的には結構衝撃的な部分でした。

セミナーで行動経済学や脳科学の話などをして、

「人間には、こういうたくさんバイアスなどがあります。ほっとくとこれに振り回されるので、僕らはこうして学び、意識して生きることで振り回されないようにしましょうね」

なんて言っていたけれど、もしかしたら「どんなに意識しても振り回される」のが人間なのかもしれない。それがいいか悪いかということではなく、それが人間なのなら、教育はそれを前提に構築しなければいけないのかもしれない。自分が「バイアス？何それ美味しいの？」状態になれるからといってそれを前提にはいけないのかもしれない。山の登り方は、ひとつではないのだから。

そう思って、当初の予定から大幅に内容を変更して全体が完成したのが、これからご紹介するセミナーになります。

セミナーの全体像。

まず、全体像を説明します。

セミナーは2種類あります。ひとつは“インプット”のクラス。もうひとつは“ネットワーク化”のクラスです。共に1年間、前者が計12回、後者が計10回のセミナーを予定しています。この二つの講座を通して、巨大な要塞を作ることを目指してもらいます。

実はこの講座は、元々リーディングマスタークラスとして開講する予定でした。ただ、僕の中ではマスタークラスは去年でひと段落していたので、どうにかして Stay Gold セミナーや Wake Up セミナーを受講してくれた人たちが次のステージに進むお手伝いがで

きる講座にできないかを考えた結果が、このスタイルでした。

1. “インプット” クラス

このクラスでは、少人数で本の精読を行います。簡単に言えば「書いてあることを正確に理解する」というだけのクラスなのですが、実際にやってみるとこれがめっぽう難しい。メールでは少し言及しましたが、数年前にリーディングマスタークラスを開催した時は、1年間で2冊課題の本を扱いました。一冊は読み終えましたが、もう一冊、コンテンツの判断力批判は、30ページくらいしか読めませんでした。

僕は毎月読む範囲を決めて、そこからちょうど入試現代文みたいに「問題」を作っていて、それについて答えることを通して読解を深めてもらおうと考えました。もちろん、入試の「悪問」みたいな問題ではなく、ちゃんと読めていれば難なく答えられる問題を作っていたつもりでした。ところが、実際ふたを開けてみると、誰も問題に答えられない。時間は何十分も取って、周りの人と議論までしているのに、全く正確な答えにならないのです。

つまり、全く日本語が読めていない。

これが現実でした。

「目の前にある情報を正確にインプットする」能力は、人間が獲得しうる能力の中でも最上級にレバレッジが効くものです。それは読書体験だけにとどまりません。僕はよくセミナーを受けるとき、友達と話すとき、旅をするとき、映画を観るとき、買い物をするとき、あらゆる瞬間が勉強になると言っていますが、実はそれを支えているのがこの「目の前にある情報を正確にインプットする力」なのです。

「生きていること＝勉強」

とはこういうことを指しています。よく考えれば当たり前のことです。同じ景色を見ていて10の意味を吸収できる人とひとつも吸収できない人とでは、全く成長の速度が違いますよね。これはひとえに「吸収力」つまりインプットする力によって決まっているわけです。

これができるようになると、起きてる時間全てがインプットの時間になります。普通の人は「勉強の時間」というのが1日の中で設けられていて、熱心な人が必死に頑張ってるって、眠い目をこすりながら4時間5時間勉強しているというのを自慢している一方で、僕は毎日20時間くらい勉強していることになったりするわけです。

これはつまり、毎日他人の5倍やっているとすることを意味します。

毎日単純な量で5倍の差がついていて、しかも「インプットする力」そのものにも差がついていますから、きっと毎日20倍くらいの差がついているのではないかと思います。

20倍。

もしこの概算が正しいとすれば、みなさんは今のままで僕の20倍勉強時間を取って、やっとならば僕と同じくらいになれるということです。これはつまり、1日24時間では無理なことです。無理なことはすべきではない。

ではどうしたらいいのかと言えば、インプットする力にレバレッジをかければいいのです。今のインプット力では僕の20倍の時間が必要になる。でも今のインプット力を20倍にすれば、僕と同じ時間でよくなるのです。この段階になって僕と同じ時間勉強するというのはすなわち、

「僕と同じ時間起きていればいい」

というだけのことになっています。だって、インプット力が同じで、起きている時間＝勉強、なのだから。ということは、僕は今では1日6時間くらいは寝ますから、普通に寝て起きていけば、僕と同じだけ勉強していることになる、ということです。

真の「権力」はどこからくるのか？

元来、よくも悪くも「情報」というのは権力そのものでした。「情報」が重要なのは実は「情報社会」ではありません。「情報社会」というのはある意味で誰もが同じように情報に接することができるので、情報そのものにはほとんど価値はなく、「情報処理能

力」こそが実は重要になるのですが、むかーしむかしは、人類のごく一部しか重要な情報というものに接することができませんでした。

例えば、古代の共和政ローマにはディクタトルと呼ばれる人々がいましたが、これは今の英語で言うとディクテーターで、要は「独裁者」ということです。ところが一方でディクテーション（＝口述筆記）という英語があるように、これは元来「文字を扱う人」という意味だったのです。

文字を扱える人、情報を扱える人が独裁的な権力を持っていた。

こういう文化的な、歴史的なニュアンスが言葉の起源を追いかけていくと見え隠れしますが、いずれにせよ、今の時代はもっと進んでいるわけです。だって、先ほども言った通り、情報に触れるだけではなく、それを「どう処理するか」がその人のポジションを決定する時代になっているわけですから。

これを少し難しく言えば、今では情報が個人化され、権力が偏在するようになったということです。分かりやすく言えば、

「適切に情報を処理できる人がリーダーになれる時代」

ということです。特にネットの発達はさらにそれを進めるように見えます（おそらく、これを読んでいる多くの人が、言葉にはできないとしてもぼんやり感じていることだとは思いますが）。

歴史的に、情報技術や情報公開メディアなどの革新は、国王や教会など一部特権階級の特権を解体し市民に渡す役割を担ってきたと言えると思います。それが情報の個人化であり、権力の解体と偏在化です。だから言い換えれば、誰でも情報に触れ、権力を持つ可能性がある。

しかし現実には能力差があり、情報を扱う熱意にも意志にも差があるわけですから、話はそううまくはいきません。情報がどんどん公開され、つまりスタート地点がフラットになればなるほど、単純な実力主義の、本当の意味での“格差社会”になるのではないかと僕は睨んでいます。だから「二極化二極化」とここ数年僕は言い続けているのです。

世界中の大学が授業を無料で公開し、あらゆるものが無料化されていく時代は、じつは「平等社会の前ぶれ」の仮面をかぶった格差社会到来のシグナルなのではないかとも思

います。スタートの平等を目指したアメリカの格差がすさまじいことになり、結果の平等を目指した日本が真ん中に団子になったのは偶然ではありません。

歴史的に、何度革命が起こり、権力が打倒され市民の権利が保証されても、結局は権力や格差はなくなりませんでした。なぜならその時代その時代で権力を持つために要求される「情報処理」の能力がどんどんと高まっていったからです。ですから、むしろ歴史を通してその格差は拡がり続けたとも言え、これからも指数関数的にアクセスできる情報が増えることを考えれば、この流れの加速はほぼ間違いないと思うのです。

リーダーとしての生命線。

長くなりましたけど、そんな時代を背景に、インプットの力というものがどれくらい高められるのかはリーダーとしての生命線だと僕は考えています。ですから、そのインプットの質を高めるクラスを、ひとつ開講いたします。

具体的には、冒頭に書いた通り本を読んでいくわけですが、以下のようなスタイルでやっていきたいと思っています。

クラス1：『大衆の反逆』(by オルテガ) クラス (1クラス20人前後、最大2クラス開講)

課題図書を大衆の反逆として、これ一冊をまずは毎月一回、半年間かけて読みます。「本当の意味でのインプット」とはどういうものかを体験してもらい、なおかつ大衆とはどういうものかについて体系的に述べられた古典とも言えるこの本を読み込むことで、現代社会の立ち位置、そして未来をよりクリアに捉えられるようになりたいと思っています。

後半半年で何を読むかはまだ未定で、実際に受講者の皆さんの様子を見ながら決めていきたいと思っています。

クラス2：『人生論』(by トルストイ) クラス (1クラス20人前後、最大2ク

ラス開講)

こちらのクラスではクラス1よりもやや思想色が強く、「生き方」そのものを考えさせる著作であるトルストイの人生論を課題図書として扱い、やはり毎月一回、半年間かけて読んでいきたいと思えます。

トルストイは小説家というイメージが強いかと思いますが、晩年はこういう生き方についての本ばかり書いていて、そのどれもが重要な著作です。特に、彼の著作を1000分の1くらいに薄めた「自己啓発書」は大量に出回っていますので、それらの「本質」を理解するためにも重要な人物であると言えるでしょう。

こちら、最大2クラス開講とありますが、事実上1クラスは従来のマスタークラスの方の継続で埋まっているので、残りは1クラスのみになります。

クラス1もクラス2も「土日クラス」と「平日クラス」の両方を作ります。そのため、平日は無理、あるいは土日は無理、という方でも参加してもらえます。また、読解とディスカッションが中心になり、僕の解説などはおまけ程度のクラスですので、ビデオ撮影は行いません。

つまり、基本的に毎回ライブで参加できる方でないと、少しもったいないということです。何回か欠席してしまう、くらいであれば問題ないと思いますが、年間で3回くらいしか出れません、となると厳しいのかなという感じです。

自己「投機」に陥らないために。

世の中の「意識高いですよ」系の人々は「自己投資」という言葉が大変好きみたいですが、僕は彼らのその言葉の使い方は間違っていると思っています。彼らのは「投資」ではなく「投機」です。つまり、

「短期的な利益を得るための行為」

であって、それは言い換えれば単なるギャンブルです。言うまでもなく、そんなことを

続けていたら年齢を重ねる毎にリスクは高まるわけで、僕には怖くてとてできるシロモノではありません。まぐれで勝っているトレーダーが勘違いして人の話を聞かなくなるように、彼らも「俺のやり方で結果が出てるじゃないか」と言うんだと思いますが、まあいつまでもセンスで勝てるほど世の中甘くないわけです。

一方で、本当の意味での本の読み方は「投資」です。一冊の本を半年かけて読むと言っているのですから、そもそも長期的な視点がない人には取り組むことすらできないことですよね。そして、ほとんどの人が頭では大切さを理解しながら、口ではいろんな言い訳をして取り組まないことでもあります。

その結果、ほんの一部の「投資家」の人たちが真のリーダーになっていき、「投機」に目がくらんだ人たちがいつまでも「年間1000冊読んでます！」とかいう寒い自慢をし続けなければいけなくなるわけです。二極化とは本当に残酷なものだと思います。

僕は、火星として「当たり前」だと思っていた「精緻なインプット」を、可視化し、具体的にこうやるんだというのをデモンストレーションしながら、みんなに訓練し身に付けていく講座にできればと考えています。

真の意味での勉強、真の意味でのインプットといものを身に付け、リーダーとしてのステージを上げたいと思う人の参加を歓迎します。今の読解力などは一切問いません（そもそも僕に言わせれば「読解力自信あります」という人こそ読解力は大体ありません）。1からゆっくりやっていきますので、その点は安心して参加してください。

この“インプット”クラスの受講費は各月5万円（税込）の12か月払いを考えていたのですが、個人的には資料作成のストレスから解放されていますし（とは言え問題を作るのはすごく大変なのですが・・・）、本当のインプット法をなるべく多くの方に身に付けてほしいので、各月5万円（税込）の10か月払いとさせていただきます（2ヶ月分はサービスということです）。一括払いをご希望の場合は税込みで50万円です。

第一回目はクラス1、2共に10月下旬を予定していきまして、詳細は受講者の方に個別に連絡いたします。ちなみにこのセミナーは（僕のセミナーにしては珍しく）年間の日程を第一回目の時にお伝えしますので、「木坂のセミナーは日程の連絡が直前で困るんだよ・・・」という至極真っ当な日程の不安がある場合でもご心配はいらないと思います。

2. “ネットワーク化” セミナー

もうひとつは“ネットワーク化”セミナーです。

これは、簡単に言うと

「自分だけの知のネットワークを構築してもらいたい。自分の人生を成功へと導くネットワークは、自分にしか作れない。そのための方法と、実例を“同時に”見せられる講座を開催したい」

というかねてよりの僕の思いを形にした講座になります。

例えば、僕は「ある分野で1.5流になりたいければ、まずは10冊以上の関連書籍を一気に読むとよい」という話をよくしますし、これは一般的に言われていることでもあると思いますが、実際にそれをやってくれた人を何人も見てきて、「何かが違う・・・」とっていました。

別にその人の能力が低いとは思わない、でも、僕が思っているものとは何かが違う、という印象なのです。実際本人も「確かにその分野に関する知識は飛躍的に増え、一般的には専門家に見えるようにはなったのかもしれないけれど・・・」という感じで、どこか違和感をぬぐえない印象でした。

特に、そういうジャンルを2つ3つと増やしていった時にその傾向は顕著になり、いわゆる「物知り博士」にはなるのだけどその先に行けないという人がほとんどでした。これは一体どういうことかと何年も考えてはいたのですが、イマイチこれといったアイデアも出ず・・・。

ところが、例の「火星人疑惑」のところであるヒントが分かりました。インプットした知識の使い方に関するヒントです。

僕は、「宇宙空間に、ランダムにふわふわ知識が浮いている。そして何かのきっかけでそれがぐわっと整理され、利用可能な形で引き出される」という感覚を持っていました。つまり、知識という名の風船を入れれば入れるほど単純にネットワークされる分母が増

えていくので、後からネットワークするそのパターンが無限に増えていく、という感覚がありました。

が、新田君曰く、一般の人はそうではない、と。彼曰く

「普通の人、ひとつひとつの風船なんか頭の中にはありません。もともと自動的にネットワークとして抽象化し、頭に入れてしまうんです。だから、バラバラにして自由に後からネットワークするなんて芸当はできません」

と。

確かに、脳科学的にも「人の記憶はネットワークによって行われる」ということは確認されてきていますし、それを僕は昔セミナーで解説したりもしました。しかし今思えば、僕が思っているネットワークによる記憶とは少しイメージが違っていました。僕がやっているのはあくまでも

「後から自由にネットワークを作る」

ことであって、いきなりインプットの段階でネットワークを固定してそのまま記憶倉庫にズドンとしまうわけではないのです。AというネットワークをAというネットワークとして固定して記憶してしまうと、例えばA、B、Cという3つのネットワークが記憶された時に、あくまでも「バラバラ」にそれらのネットワークが記憶され、ABC間のネットワークを作ることができなくなってしまいます。

僕がなぜセミナーでどんな角度からどんな質問がきても一定以上の答えができるのかと言えば、

「質問をきっかけにして、その都度関連する風船たちを一瞬で整理し、つまりネットワーク化し、引き出しているから」

なのですが、多くの人が質疑応答などで困ってしまうのは、あらかじめ固定されたネットワークを解体できず、ネットワーク間同士の交流がなく、少し「目新しい」質問がくると途端に応用が利かなくなるからではないかと思うのです。

僕は

「知識は与えられることもあるが、知恵は獲得しにいかなければならない」

と考えていて、この「獲得」というのは頭の中で作られる知識のネットワークをイメージしていたものです。つまり、知識というのはある程度受け身でも手に入れることはできる、しかしネットワークは「自分の力で」作らないといけない、ということです。

この“ネットワーク化”セミナーでは、基本的な知識を与えつつも、その使い方、つまりネットワークの仕方(=知恵の獲得の仕方)をメインに見せることができればなと思っています。

「話す」のではなく「見せる」こと。

英語には、リーダーが絶対に忘れてはいけない原則として、Show, don't tell.という有名なフレーズがあります。

今、「見せる」と言ったのは個人的に大切に、今回のセミナーは単に「こうしていろいろな知識をお話ししました、はい、あとは自分でネットワーク作ってくださいね」というセミナーではないということです。あくまでも、ネットワークの実例を見せたい、と。

もっと言えば、「僕が普段頭の中でどのような作業をしているのか」を皆さんの目の前で可視化し、応用可能な形でお渡ししたいのです。

ですから、基本的に以下のようなスタイルを進めていかせてもらおうと思っています。

まず、毎月10冊の本を指定します。そんなに難解な本はあまり入れない予定なので全部読んできてもいいですし、やっぱり1冊しか読めなかったということであればそれはそれで問題ありません。1冊も読めなくても、セミナー自体は理解できるようにします。でも一応、毎月10冊を指定します。その10冊を使って、僕はセミナーを作ります。

それによって10冊から学べる「知識」がどうネットワーク化し、新しい形と
なって現れるかを、「見て」ほしいと思うのです。

セミナーそれ自体も勉強になると思いますが、あらかじめどの10冊を使ったのかがわかる意味というのは、僕がどの本のどの点に注目し、どのようにネットワーク化してきたのかを知るという点で非常に重要だと考えています。できれば、自分だったらこの10冊でどんなセミナーにするか、どんな知的ネットワークを作るか、を考えてから来てくれると、学習効果は最大になると思います。

そして、その10冊のうちの1冊（ないしは2、3冊）を次の月のセミナーの橋渡しとして使います。次の月のセミナーではまた10冊の本を指定しますが、前の月のセミナーとの何らかの関連性を保ったまま、その10冊を使ってセミナーを作ってきます。

・・・というように、ある種の「数珠繋ぎ型セミナー」のような形で、毎月リレー式に少しずつ関連のあるセミナーをやるというイメージです。一ヶ月で10冊の本がネットワークされます。1年受け終わると、10個のネットワークがネットワークされ、結果として100冊の本がネットワークされることになるわけです。

これはつまり、一回一回のセミナーそれ自体がネットワーク化のケーススタディにもなるし、複数回続けて受講することで

「ネットワークをネットワークする」

というタイプのケーススタディとしても見せられるものだと思います。たぶんこういうことができる人は、世の中になかなかいないんじゃないでしょうか。僕が知らないだけかなあ。

いずれにせよ、人間はそうやって「ネットワーク」としてできているのだから、それを踏まえた上で、でも硬直化したネットワークをいくら独立した形で頭に入れても使い勝手が悪いからそれは踏まえて乗り越える形で、本当の意味で応用の利くネットワークを作れるようになる、そんなセミナーを月1回、合計で10回開催したいと思います。

この“ネットワーク化”セミナーの受講費は各月5万円（税込）になります。10回で全体のデザインとなるように作っていきますので、特定の月だけの受講はお断りしています。ご了承ください。一括払いをご希望の場合は“インプット”クラスと同じく、税込みで50万円です。

第一回目は10月の下旬を予定してしまして、受講者の方に個別に連絡します。ちなみにこのセミナーも（僕のセミナーにしては珍しく）年間の日程を第一回目の時にお伝え

しますので、「木坂のセミナーは日程の連絡が直前で困るんだよ・・・」という至極真つ当な日程の不安がある場合でもご心配はいらないと思います。

また、こちらのセミナーは毎回ビデオ撮影を行い、セミナーのビデオと使った資料を後日配布いたします。一応従来で言うともマスタークラスという位置づけで、ライブで受講していただく前提なので「ビデオ受講コース」という価格を少し落としたコースは今回設定いたしませんでした。ビデオ受講していただくことはもちろんできますが、価格の面だけ、予めご了承ください。

人生に生きる“応用力”とは何なのか。

僕は、応用力というのは突き詰めればネットワークの作り方に行きつくと考えています。ざっくり言えば、知識のネットワーク化が上手な人は応用力があり、下手な人は応用力がないということです。ネットワーク化が上手な人というのは、上で説明したように、ある問いをトリガーとして、持っている知識を柔軟にネットワークできる人のことかなと思っているのですが、そういう力を具体的にどうやって鍛えていったらいいのか、僕なりに考えた結果がこのセミナーです。

これは実は、一見関係ないように見えるかもしれませんが、僕がリーダーの必須素養に挙げている「抽象化と具体化」という作業とも密接にかかわっています。「抽象化」というのは僕にとっては「宇宙空間に風船がただ浮いている」世界を作っていくことです。一方で「具体化」というのは、ある問いをきっかけにその風船の中から関連したものだけが整理され、何らかのネットワークになって引き出されることを意味します。

実際のイメージは人それぞれだと思うので風船でもなんでもなくてもいいのですが、要は大事なのは、

「情報をどんな文脈でも利用可能な状態にあえてしておく」

ことを抽象化と呼び、その無味無臭・無色透明となった情報（＝知識）を

「今、自分が生きている現実世界の文脈に落とし込む作業」

を具体化と呼ぶわけです。無味無臭、無色透明となった情報に味や匂い、色といったものをつけていく作業のことですね。

ですから、通常「抽象的な知識」を得ることになるインプットにおいては、「常に自分の世界に引き込んで学ぶ」ということが大切になってきます。ここで言う具体化です。実は学習効率がいい人というのは、別に大量の知識を一気に頭に詰め込む能力が人一倍高いのではなく、この作業が上手なのです。抽象世界にポンポン風船を放り込むと同時に、常に、リアルタイムで「現実」意味のあるものとして学ぶことができている。

具体化とは、ある知識を簡単な言葉に直すのでもなければ概念の次元を言葉遊び的に移動させることでもなく、「今の自分の人生に配置する」ことを意味しています。無味無臭で無色透明な「知識」を覚えるのは難しいですが、自分にダイレクトに関係のある話は自動的に覚えちゃいますよね。少し難しく聞こえたかもしれませんが、簡単に言えばそういう話です。それをやりながらセミナーを聞いてくれ、というのが毎回僕が言っていること。

しかし、それを必ずセミナーの冒頭で言っているはずなのですが、多くの方はそもそもそれがどうやったらいいかわからないらしく、結局「抽象化されたままの知識を必死になって得る」だけで終わってしまっているらしいということもようやく分かってきました。

なぜみんなそんな効率の悪い勉強をしているのかと不思議だったのですが、一般的な記憶の仕方や知識の利用の仕方、概念化の方法や具体化のイメージが分かった今、それを踏まえて、そしてそれを解決する（乗り越える）お手伝いが、ようやくできるかもしれないと、個人的には勝手に楽しみにしています。

結局“要塞”とは何なのか。

要塞というメタファーについて、何となくイメージはわくけど実際問題何のかよくわからない、という人は多いのかもしれませんが。例えば知識を10持っている人よりも1000持っている人の方が100倍でかい要塞なのか、と言えばそういうわけではないのですが、では一体何が要塞の大きさを決めているのか、と。

僕が考える要塞のイメージは料理に近いものです。

古今東西から最高の素材を集めて、クリエイティブな方法で料理にする。決して、「素材開発」からするわけではないですし、その素材を10個持っている人より1000個持っているの方が良い料理人というわけではないですよ。むしろありきたりな、少ない素材をクリエイティブな方法で組み合わせてアッと驚くような料理を作る人、そういう人が真の料理人なのではないかと思うのです。

アーティストというのは基本的にこれをやっているわけですが、その意味で要塞を作るのは本質的に「アートとサイエンスの融合」なのです。どこかで聞いたフレーズですね。素材を集め、その素材を分析しディテールまで理解するサイエンスの部分、そしてその素材を組み合わせるアートの部分。

こう考えた時に僕らが陥りがちな罠というのは

- ・ 素材集めに終始してそれを冷蔵庫にしまい、良きところで腐ってしまう
- ・ 素材の吟味が下手でいらぬものばかり冷蔵庫に突っ込んでいる
- ・ いろんな素材を買うのに作る料理はいつもワンパターン
- ・ 素材自体はいいものなのに料理の腕が悪すぎる
- ・ 素材自体が料理だと思い込んでいる
- ・ 素材不足

などなど、多種多様なものが考えられます。自分でも何となく心当たりがある傾向というのはあるのではないかなと思うのですが、うまい料理を作る、みんなをあっと言わせる素晴らしい料理を作る基本原則はシンプルです。

「適切な素材を選び、適切な方法で(できればちょっとだけユニークな方法で)料理する」

これだけです。

こんな簡単なことが、実行するのは難しい。

僕は、素材を作ることができるのは神様あるいは自然だけだと考えています。素材開発は魔境であって、人間風情が中途半端な覚悟で足を踏み入れるところではない。中世の

錬金術師だって、その領域には足を決して踏み入れませんでした。彼らは神が用意した素材の「完成」を目指したにすぎません。

人間は、既にある素晴らしい素材を発見し、理解し、料理するだけの存在です。最終的に出来上がるものがどれだけクリエイティブなのか、どれだけユニークなのか、そういう部分が人間の能力、特に創造性が発揮される場所だと思います。

そういう単純な部分を見失うから、「最高の素材を開発してやるぜ」とか「もっともっと素材を集めて誰も作ったことのない料理を作るぜ」とか「(素材の特性を無視して)とにかく誰も作ったことのないレシピを完成させるぜ」などといった、まったく身の程をわきまえない分不相応な野蛮な発想が生まれてきて目も当てられない料理が出来上がる、言い換えれば、不可能な次元での非凡を求めるあまり結果的にあまりに凡庸な人生になるという悲劇が起こるのではないのでしょうか。

多分これを読んでいる皆さんの中には、素材集めに苦手意識を感じる人、組み合わせ部分に苦手意識を感じる人、どちらにも苦手意識を感じる人、特に苦手とは思わないけれどさらに高いステージが視野に入っている人、いろいろいるのだらうなあと考えてこの文章を書いています。今、どのステージにいても構いません。どのステージにいる人であっても、必ず課題のヒントになるようなものを提供できるセミナーになると思います。

自分の現在位置をしっかりと見定め、課題を見誤ることなく設定し、またひとつ、次のステージに進みましょう。

9月30日はどうなったのか？

ここまで長々と僕の好き勝手な放言にお付き合いいただいたわけですが、事前にメールで告知していた9月30日のセミナーはどこ行った、という感じかもしれません。もちろんなくなったわけではなく、行います。ただ、この9月30日のセミナーは本編というよりもキックオフセミナーのようなもので、僕の中では「ゼロ回目」という位置づけになっているのです。

この9月30日に行うセミナーですが、タイトルはそのものズバリ「1. 5流のつくりかた」で、今後1年間の行動指針、学習指針となるように、直接的に「1流とはどうい

う生き方をしているのか、2流以下とは何が違うのか」というテーマで、約3時間、しっかり話していこうと思っています。

メールでも言及した通り、最近では脳科学的な知見の進展により、天才とか、一流とか、そういう人々の特性が科学的に解明されてきています。従来はどちらかという哲学的に、あるいは類型論的にしか語られることのなかった人間の特質が、厳密に科学の手法で解明されつつあるのです。

このセミナーではそういう最新の研究の成果を踏まえて、僕らが実際に生きる上で何をどのように活かせばいいのか、もっと大胆に言うことが許されるなら

「明日からどう生きれば（1流とまではいかななくても）1. 5流のリーダーとして進化していくことができるのか」

について解説したいと思っています。

もちろんその後1年間のガイドラインを兼ねますから、記憶法とか読書法などについても、僕が考える枠組みを解説する予定です。特に、ステージを上げるという観点から最も重要なのは「リズムに乗ることだ」とセミナーではお話ししていますが、その「リズムに乗る」という現象を、より具体的な体系として本邦初お披露目したいと思っています（各々の概念自体はいろんなセミナーで断片的にはお話ししていることなのですが、ようやくそれらがシンプルな体系にまとまったということです）。

Wake Up セミナーの段階ではまだ僕の中で煮切ってなかった部分があってお話しできませんでしたが、今ではほぼイメージ通りの体系、具体的には三段階の構造に収まってくれています。もちろん今後のバージョンアップはあるかもしれませんが、現段階で納得のいく形になっているので、それをご紹介したいと思っています。

このセミナーは、“インプット”クラスもしくは“ネットワーク化”セミナーを一年間受講される方は無料で受講していただけます。一方、これらの一年間のセミナーには参加できないけどこのセミナーだけ参加したい、という方でも受講していただけるようにしました。

こちらも、ある意味で Stay Gold セミナーや Wake Up セミナーを受講してくれた方への補講みたいな位置づけでもありますので、いつもの5万円ではなく3万5千円（税込）とさせていただきます。是非、「俺は自主学習派なんだぜ！」という剛毅な方も、この

セミナーで真の学習法、長期的に見て効率のいい学習ガイドラインを手に入れていただければと思います。

ただし、今回会場には最大で200人弱しか入りません。かなり直近の平日ということもあってそんなに人数は来ないかなと思っていましたが、万が一人数をオーバーしそうだった場合、もはや抽選をしている時間もないので、支払い確認順に150人程度をライブ受講の上限とさせていただきます。それ以降の方は自動的にビデオ受講ということでご了承いただけますよう、お願いいたします。

フォローアップたち。

今回のこのセミナーは、ほとんど一般的なニーズはないと思いますし、非常に販売しづらい特徴を持っているであろう関係で新田組長のみがおそらくアフィリエイトをすると思うのですが、彼は大体アフィリエイトの特典として「勉強会」とか「フォローアップコンテンツ」というものをつけています。そのおかげで彼のコミュニティの人々は、もしかすると理解度が少し高くなっているのかもしれませんが（し、逆に低くなっているのかもしれませんが、僕にはそれは分かりません）。

となると、同じ金額を払っているのに「組長への上納金なんてとんでもない！全額木坂さんの懐に入れてほしいぜ！！」という心優しき人々は、その優しさに対する見返りが何もないということになり、少し不公平な気もしていました。「いやいや、優しさに見返りなんかいらないですぜ」ということなのかとも勝手に思ったりしましたが、そうは言っても特に、学習効果という点で何か僕にできることはないのか、とは思うわけです。一応これでもリーダーだと思っているので。一応。

でも勉強会とか、定期的なフォローアップコンテンツとか、約束できないし・・・と。リーダーだけ。一方で、そうは言っても新田組の組員の皆さんにも、フォローアップは届けたいし・・・と。だってリーダーだもの。

そんなようなことをぐじゃぐじゃ考えて、一応今回のフォローアップスタイルを決めましたので、ひとつずつ説明させていただきます。

まず、僕から直接申し込んだ場合に受け取ってもらえるフォローアップについて説明します。

1. “インプット” クラスを受講される方にですが、半年に一回、フォローアップ勉強会を開催します。

上で説明した通り、“インプット” クラスにおいては半年で1冊読む予定なのですが、一冊を読み終わった時点で、その本についての何らかの勉強会を開催しましょう。それは純粋な勉強会形式になるのか、それともセミナー形式になるのか、それは希望や状況次第ですが、何にしても

「はい、一冊終わり、次の本にいきましょう」

ではちょっともったいないような気がするのです。というのも、あくまでも僕は一度読んだ本の情報は無数の風船として全て宇宙空間に保存されますが、普通はそうではないので、読み終わってから1回、ダメ押しで定着のための会を設けたいと思います。

みんながどんなところが残っててどんなところが残ってないか、またそれはなぜなのか、とかを確認しつつ発展させていくのも面白いかもしれないと個人的には思っています。

2. 次に“ネットワーク化”セミナーを受講される方に関してですが、毎月のセミナーの「ネットワークマップ」を差し上げます。

これは簡単に言うと、僕は毎月選ぶ10冊の本について、僕なりに要点をまとめ、キーワードを抽出し、その他の本との関連性などを探す、つまりネットワークする作業をするわけですが、それを「マップ」に落とし込んで配布するということです。

僕はマインドマップというものが個人的には苦手で、実を言うと頑張らないと作れないのですが、それでもマッピングしていくことの視覚的効果はよく理解しています。新田組長が言っていた「普通の人とは初めからネットワークで記憶する」という背景からもわかるように、マップになると、また違った刺激として記憶されると思うのです。

どの本のどの言葉を中心に考えていたのか、どういった順序でつながっていったのか、

などを、マップで見えるようにしたいと思います。セミナーはどうしても情報が凝縮されていて「全部の情報が重要過ぎて頭が疲れる」という状態に陥ることが多いと思いますが、その後マップを見ることでいわゆる「濃淡」もわかると思いますし、皆さんの脳に最適化された形で復習することができると思います。

僕としては結構頑張って作ることになると思われるこのマップ。是非、有効に活用いただければ。

3. 次も“ネットワーク化”セミナーを受講する方へのフォローアップですが、1年かけてネットワークしてきた100冊の本を使って、「新しい」セミナーを一本作ってみたいと思いますので、それに無料招待します。

僕は、トリガーに合わせてネットワークは自由自在に作られるべきだ、と言いました。硬直化されたネットワークなど本当の意味でのネットワークではない、応用の利く知恵ではない、と。ですから、その「本当の意味でのネットワーク」の実例をお見せしたいと思います。

毎月10冊の本を使って、何らかのテーマでセミナーを作ります。普通の人であれば、そこでその本の利用価値はほぼなくなり、「新しい本」を求めていきます。でも僕は、本というのはそんなに浅いものだとは思っていません。浅いのは、利用者の脳ミソです。

「既に学んだはずの本」が100冊集まって、また別の新しいセミナーが作られる。その現場を目撃してほしいと思うのです。

「この本の組み合わせだと、このセミナーしかできませんよ」

というのは、本当のネットワークではありません。1年後、本当のネットワークの一例をお見せできればと思います。

4. 最後に、“インプット”クラスも“ネットワーク化”セミナーもどちらも受講する方に「木坂の過去セミナーベストセレクション10（木坂本人による解説音声つき）」を差し上げます（もちろん、上に書いた1～3のフォローアップも受けていただけます）。

今回のようなセミナーのテーマの場合、僕には圧倒的なアドバンテージがあると、自分では考えています。「要塞を作る」という場合はいかにたくさんのネットワークのパターンやそのネットワークを作る素材に触れるか、ということが大切になるわけですが、それについては僕には

「あまりに膨大な過去のセミナーのアーカイブ」

があるわけです。僕の過去のセミナーはほとんど全てがネットワークのケーススタディに使えるものですし、要塞の一側面を切り取ったものになっています。ですから、この過去セミナーの中から、特に評判がよく、今回のセミナーにももっともマッチしていると思われるビデオを月に1本、合計10本、自分のセミナーを見返したことがない僕自らが厳選して（解説まで優しく添えて！）差し上げます。

もちろんその中には Consulting Master Class、通称 CMC と呼ばれる、マスタークラスの一回目とも言うべき記念碑的なシリーズも含まれますし、比較的最近行ったセミナーからも持ってくるかもしれません。もちろん Stay Gold と Wake Up セミナー、およびそれに付随する新田君解剖セミナーやライティングセミナー 2014 も含まれます。

このフォローアップのハイライトは何かというと、言うまでもなく添えられている僕の優しい（！）解説です。もちろん受講したことのない過去のセミナーを受講できるのが楽しみという方もいると思いますが、例えば仮に Stay Gold セミナーが選ばれる月があるとして、それはほとんどの皆さんが受講済みだと思えるのです。だからその場合セミナーの情報として意味が付加されるわけではない。

そうではなく、そのセミナーを、今回のセミナーの文脈、つまりインプットもしくはネットワーク化という観点から、僕が解説した音声を配布するという点に付加される意味、つまり価値があるのです。

僕が何を見て、何を考えて、何をどうネットワーク化して、何を表現したくてああいう形のセミナーになったのか、という「メタセミナー音声」が配布されるというのはもちろん僕のキャリアの中でも初めてのことで、これからもやるかと言われたらもうやらないような気もします。だって自分のセミナーの背景を解説するなんて、ズボンの中身を解説してるみたいで恥ずかしいもん。でも今回は特別に、心を強く持って、新しい世界にチャレンジしてみようと思っています。ああ、目覚めちゃったらどうしよう。

音楽や小説などではよくあることだと思いますが、僕のセミナーでも「〇〇のセミナー

の何回目が一番気に入っています」みたいな話を当時の受講生から聞かされることがあります。講師としては「最新のセミナーが一番いいだろうよ」と本音では長渕剛のようなことを思うのですが、発信側と受け手側では認識が違うのは当然ですし、「いいものはいいよね」と前向きに僕も受け入れるようにはなってきました（アーティストが若いころは絶対出さなかったベスト盤を年取ってから出すようになるのと似ているかもしれません 笑）。

が、より重要なのは、「いいと言われるには理由がある」という点です。

歌手本人がどう思っているかとは別に、人気のある曲は人気があるわけですし、宮崎駿は映画版のナウシカは嫌いみたいですが、世間の評価的にはジブリ作品の中でも上位にきたりするわけです。こういう現象には、必ず理由がある。そういう部分も解明して、みんなと共有できたら、

「人気の出やすいもの」

の共通点みたいなものがあぶりだせたりするんじゃないかなーとも、少しヨコシマかもしれないですが、思っていたりします。

自分のセミナーを解説するというあまりに恥ずかしい決定に若干の躊躇もありつつ、新田組長の怒涛のフォローアップにバランスさせるにはこれくらいじゃないとだめだろうということで決めました。是非、今回のセミナーとの相乗効果を計っていただければと思います。

さてここからは、僕から直接申し込んだのか、新田組長から申し込んだのかに関係なく受け取ってもらえるフォローアップについて説明します。

1. “インプット”クラスもしくは“ネットワーク化”セミナーを受講していただいた方はもれなく、木坂ミュージアムにご招待します。

木坂ミュージアムとは、もはやいわくつきの企画になってしまっているのですが、元々は Wake Up セミナーの離コースの人たちを招待する場所でした。僕が学んだ本物の本たちをはじめとして、

「本物が集う場所」

としてデザインされた、いわば個人ミュージアムのようなものを造ろうとしていたのです。結局、僕も頼んだ業者の人もこだわりが強すぎて、「適切な素材」を求めて結局ホーチミンまで行ってしまったり、にもかかわらず「適切な組み合わせ」を考えて全部白紙に戻したり、そもそも物件自体を変更したり、みたいなことになって、三歩進んで三歩下がるを繰り返し、結局今はまだ一歩くらいしか進んでいないという状態です。

一応、物件についても素材についても目処がたってきたので、おそらくはあと半年以内には完成するのではないかと期待の眼差しで待っているのですが、このミュージアムが完成した暁には、Wake Up セミナーの離コース受講者の方は当然として、今回のセミナーの受講者の方たちも全員ご招待したいと思っています。なぜなら、「本物が集う場所」だからです。誰でも呼ぼうとは思いません。

「適切な素材」を「適切な組み合わせ」で表現するところなる、という“一例”を、知識や情報以外の分野でお見せしたい。

そういう思いで、僕を始め関係者全員が一丸となって試行錯誤し、取り組んでいるプロジェクトです。是非、そこで学んだり、語り合ったりしましょう。

ただ今回はあらかじめ言っておきます。時期については、一応あと半年くらいかなと思っていますが、約束事項だと思わないでください。もし何らかの理由で延びたとしても、まあ別に逃げるもんじゃなし、待てますよ、というくらいの余裕のある心でお待ちいただければと思います。

2. 次に、“インプット”クラスもしくは“ネットワーク化”セミナーを受講していただいた方全員に「カットオフされた資料の音声」を毎月配布します。

これは何かと言えば、要は「“ネットワーク化”セミナー本編には採用されなかったけれど内容的には大切なこと」を音声化して配布するということです。“インプット”クラスしか受講しない方も、“ネットワーク化”セミナーの内容の雰囲気を知ったり、インプットした知識の応用の感覚を学んだりするのに役立つと思いますので、同時に配布いたします。

僕がセミナーを作るにあたっていつもやっているのは、大体300くらいの内容を1く

らいにまとめていく作業です。この濃縮具合が人によっては疲れて辟易するようなのですが、言い換えれば299は濃縮されてしまってセミナーから漏れてしまっているものもあるわけです。この、セミナーから漏れてしまったけれど、でもとても大切に伝えておきたいものを、毎月音声にして配布します。大体1時間の音声が1本から2本くらいだと思っていてください。

3. 最後に、“ネットワーク化”セミナーを受講された方に、月に1回、Q&A音声を配布します。

セミナーを受けて、復習して、実践してみて、いろんな疑問が出ると思います。それを僕に送ってください。全て個別に答えることは難しいと思いますが、一定数集まったところで音声化して解説を配布します。

あんまりないと思いますが、もし一定数質問が集まらなかったり、質問の質がイマイチだったりした場合は、僕の方で勝手に解説音声を録って配布しますので、月に1回は必ず音声が届くという風に理解してください。

セミナーにはセミナーの良さがありますが、音声には音声の良さがあると、以前新田組長に説教されました(笑)。それは全くその通りで、これからはもっと積極的に録音して配布していきたいと思っています。

あと、「あれ?“インプット”クラス受講者のフォローアップは?」と思われたかもしれませんが、こっちは基本的に新田組がメインになると思うので、組長の意向がもし何かあれば、その意向に従いたいと思います。

以上が、セミナーに関するほぼ全てだと思います。

必要な情報が欠けていたらまた随時メールなどでフォローしますが、僕が思う大切なことは大体書けました。もし、これを読んで「1年間、木坂と一緒に要塞を作りたいぜ」と思っただけでしたなら、

<https://55auto.biz/alchemy/touroku/neom14.htm>

からご連絡いただければと思います。

一応カード決済も和佐君に用意してもらいますが、木坂経由なのか組長経由なのかを明らかにしておきたい意味もあり、銀行振り込みをご希望の方もカード決済をご希望の方も、一括払いをご希望の方も毎月の継続払いをご希望の方もこの URL からひとまずご連絡いただければ助かります。その後のプロセスについては、自動返信メールに記載していますので。

ではでは、この辺で失礼いたします。

長々と書いてしまいましたが、お付き合いいただきありがとうございました。

また再びセミナーでお会いできることを楽しみにしています。

木坂